

## 協同の力が地域を元気にする

「お前がやりたいこと何でもやってやる。みんなで協力して何か面白いことやろうや」ある酒席でのひと言である。私の住む愛媛県今治市菊間町松尾地区は柑橘栽培が盛んな所で、温州みかん、伊予柑と言った一般的によく知られている柑橘に加えて、最近では愛媛果試第28号(紅まどんな)、甘平<sup>かんべい</sup>などの栽培にも積極的に取り組んでいる。この地区に5年ほど前、『桜会』なるものが誕生した。主な活動は、環境美化を中心とした「緑豊かな地域づくり」である。地元では良く知られている歌仙の滝公園はじめ地区内全域に、サクラ・ハナミズキ・カエデなどの苗木を約400本、これまでに植樹した。今は20代～80代までの桜会メンバー20人余りが定期的に集まり、植樹した苗木の管理と地域の将来について夜遅くまで熱く語り合っている。そんなある夜の懇親の場で飛び出したのが前出のひと言である。

高齢化が急激に加速している地域にあって、私がJAの営農経済部門を担当する役員に就任したということで、地区内の大先輩たちが鼻息荒く、私にけしかけてきたのだ。「よし、それならあの1haまとまってある田んぼのところでハウスの紅まどんなをみんなでやりましょや」と私が仕掛けた。「よし、やるぞ」と酒の勢いも借りて、先輩たちの返答。そんなやり取りが延々あって、次の日の朝を迎えた。「本当にみんなやる気あるんじゃないだろうか」そんな思いを持ちつつ、私は一人ひとりに確認の電話をしてみた。すると、「わしは、やるつもりでおるよ」「みんなでやるんじゃないたらやるよ」と全員が即答した。既にみんなの腹は決まっていたのだ。今後どんな段取りで進めていくのかを話し合うため、早速、6戸の農家8人を集会所に集めた。まずは、グループの名前を決める。「紅まどんなを作る男たちの集まりじゃけん『松尾坊ちゃん倶楽部』がええぞ」と言うこととなり、みんなのやる気に一段と拍車<sup>しやくしゃ</sup>が掛かってきた。そんなこんなで稲刈り終了後には、盛り土、天地返し等圃場の整備を進め、半年後には約1haの土地に見事、苗木が植わった。

私は常々「地域を活性化していくには巻き込む力、巻き込まれる力、そしてコーディネートする(そそのかす)力、それぞれの役割を持った人が必要だ」と話している。以前は地域の中に影響力の強い人がいて、周囲のみんなを巻き込んでい

た。一方で巻き込まれ役の力も地域内には必要だが、影響力のある人があまりに強いと巻き込まれ役はその力を発揮しない。それが地域の活性化に継続性がない大きな要因でもあった。巻き込み役と巻き込まれ役はその都度役割を持つ人が変わる。そういう関係が構築できていかなければ、地域の活性化や地域創生はなし得ない。そして、もう一つの大事な役割であるコミュニティのコーディネーター役に誰がなるか。「ここはあなたがリーダーシップを取って」「ここはみなさん巻き込まれ役ですよ」と、コーディネーター役の腕次第で、地域は活性化し、元気にもなっていく。農山村において、その役割の一つをJAが担って行かなければいけないと思っている。

苗木を植えてから2年が経過した今春には、みんながビックリするような立派なハウスが建った。これには国の攻めの「農業実践緊急対策事業」やJAのアグリマイティー農業資金などを活用した。

私なりにこの3年間のことを振り返ってみた。「みんなで何か面白いことやろうや」。この言葉からスタートし、私自身がコーディネート役となり、みんなを巻き込んだつもりでいた。しかし、よくよく考えてみると、間違いなく私がみんなに巻き込まれていたのだ。知らず知らずのうちに、いつも私が話している「巻き込み役と巻き込まれ役はその都度変わる」ということを自らが、自らの地域で、みんなに巻き込まれながら実践してきたように思う。

そして今、新たな挑戦が始まっている。紅まどんなの園地近くでは、人が出会い交流する場となるよう、農産物や加工品などを販売する小さな直売所を開くための準備が着々と進んでいる。また、落葉果樹の大規模圃場づくりも計画中である。これも、新たなコーディネート役と巻き込み役が中心となり取り組んでのことだ。

5年前に花の苗木を植えることから始まったこの地区の地域づくりは、サクラの花を咲かせるとともに住民の心にも大輪の花を咲かせた。『坊ちゃん倶楽部』の紅まどんなも来年の秋には大きな実を結ぶ。10年後、20年後、「この地域にはどんな色の風が吹いているのだろうか」あれこれ思いを巡らせていると自然に心が弾む師走の夜長である。

**(越智今治農業協同組合 代表理事専務 渡部浩忠・わたなべ ひろただ)**